



(京都西南部)

京都・長岡京跡 (1)

- 1 所在地 一 京都府向日市鶏冠井町沢ノ東、二 同市上植野町持丸
- 2 調査期間 一 一九九三年(平5)四月～七月・八月
二 一九九三年九月～一〇月
- 3 発掘機関 勅向日市埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 松崎俊郎・國下多美樹
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 長岡京期(七八四～七九四年)
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

一九九三年度に長岡京跡で木簡の出土した調査は五件ある。全て左京域で、発掘調査は三機関にわたる(なお、勅長岡京市埋蔵文化財センター担当の左京第三二六次調査は、調査が一九九四年度にまでわたるため、次号で報告する)。本稿は、勅向日

市埋蔵文化財センターが担当した三件の報告であるが、うち二件は隣接地のためまとめて記す。

- 一 左京三条二坊十六町・三条三坊一町、東二坊大路(左京第三〇一・三二二次調査)

調査地は標高一三m前後の氾濫原上に位置し、長岡京では二条大路と東二坊大路の交差点南の東と西の町に相当する。

三条三坊一町内では西辺築地東雨落溝、築地の下をくぐる暗渠一条、暗渠につながる町内の排水溝、桁行三間×梁間二間の南北棟掘立柱建物一棟、土坑などを検出した。築地東雨落溝は町のほぼ中央あたりで築地から離れ、東南方向に弧を描いて曲がり宅地内にのびる。これより南では、土坑や溝が築地に並行する位置に断続的に検出される。

三条二坊十六町内では、東辺築地西雨落溝、築地の下をくぐる暗渠二条、桁行五間×梁間二間の南北棟掘立柱建物一棟、東西方向の柵列一条、町内排水溝、土坑などを検出した。雨落溝は断面箱形を呈する深い溝である。暗渠は溝底が高く、雨落溝の増水したときに条坊側溝への排水溝として機能するようになっている。

両町とも比較的ゆったりとした宅地配置である。

木簡は、東二坊大路東側溝SD一〇〇〇二から二点、十六町内の井戸SE三一〇四から削屑三五点が出土した。井戸は下段井戸側に長辺〇・六mの方形曲物を使用している。井戸から出土した木簡

には、井戸掘削時の裏込め土から出土したものと、廃棄時の井戸側内埋土から出土したものとがある。井戸調査途中で断簡を発見したため、周辺の土を合わせて持ち帰り水洗した。この時発見されたものも多く、井戸掘形内一二点、井筒内八点と、どちらからの出土か不明なもの一五点がある。

井筒内からは墨書土器、裏込め土からは冠帽片も伴出している。

二 左京四条二坊六町、四条条間小路(左京第三一〇次調査)

調査地は、四条条間小路を含む左京四条二坊六町北東部に相当する。西側の二町の調査(左京第二・四次)では、木簡とともに「西宮」と記された墨書土器が多数出土している。

今回の調査では、長岡京期の新旧二時期の遺構群を確認した。そのうち、旧期には流路・溝・杭列、新时期には四条条間小路南北両側溝・町内溝・整地痕跡などがある。以上から、四条条間小路の位置と規模が明らかになり、その敷設以前には河川が貫流していたことが判明した。

木簡は、旧流路SD三一〇一〇―Aから一点出土した。出土地点の状況は一定の流れをもって埋没したことを示しており、投棄場所は特定できない。共存遺物には、長岡京期の土器類の他、墨書土器、円面硯、土馬、木製品などがある。

8 木簡の釈文・内容

一 左京三条二坊十六町・三条三坊一町、東二坊大路

東二坊大路東側溝SD100011

(1) 厨糟老升肆合□直□ …… □ (89+31+24)×(22)×4 081

(2) □ □ □ (82)×20×5 081

井戸SE三二〇四

(3) 炊 □ 091

(4) □ □ □ [明カ] 091

(5) 東 □ 091

(6) □ □ 迷迷 091

(1)(2)は側溝最下層から出土。(1)は三片に分かれ、上二片はほぼ接合する。某厨の求めた糟の価を記す。

(3)(4)は井戸掘形内出土。(5)(6)は不明。(3)は同一材の削屑が他に二、三点あり、(5)(6)も材の似る削屑が、一、二点あるが接合しない。(6)は習書。井戸掘形・井筒内出土の削屑は右に記したものの以外は細片のため釈読困難であるが、行書の文書木簡のように思われる。時期差をもつこれらの木簡群は、十六町内で機能し続けた同一施設から廃棄された可能性がある。

二 左京四条二坊六町、四条条間小路

(1) 「鮒等魚借」

(82)×15×2.5 051

ほぼ完形の物品付札。「借」については他にもう一点「鯛借」の出土例がある(左京第二六七次、『木簡研究』一四)。肉月を人偏に作る異体字の例もあるので、「借」は「腊」の意味であろうか。

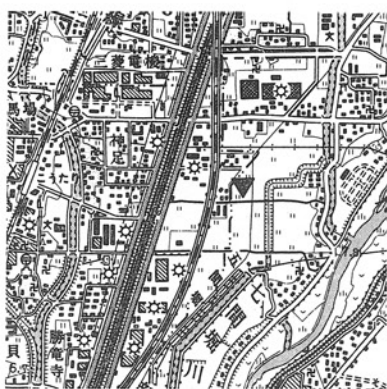
(一) 松崎俊郎、二 國下多美樹、釈文 清水みき



京都・長岡京跡 (2)

- 1 所在地 京都市伏見区淀樋爪町
- 2 調査期間 一九九三年(平五)四月～一九九四年三月
- 3 発掘機関 勅京都市埋蔵文化財研究所
- 4 調査担当者 吉崎 伸・上村和直・木下保明・長宗繁一
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 長岡京期(七八四～七九四年)
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

当調査は、一九九〇年より継続している水垂地区の発掘調査で、既に報告したように左京七条三坊一・二町で四点の木簡が出土して



(京都西南部)

いる『木簡研究』一三)。今回報告するのは左京六条三坊二町(新左京六条三坊四町)の調査で(左京第二八八次調査、井戸底部に据えられた曲物に墨書を確認した。調査地は同町の南西隅三戸主分にあたり、他に建物一六棟、井戸四基などを検出